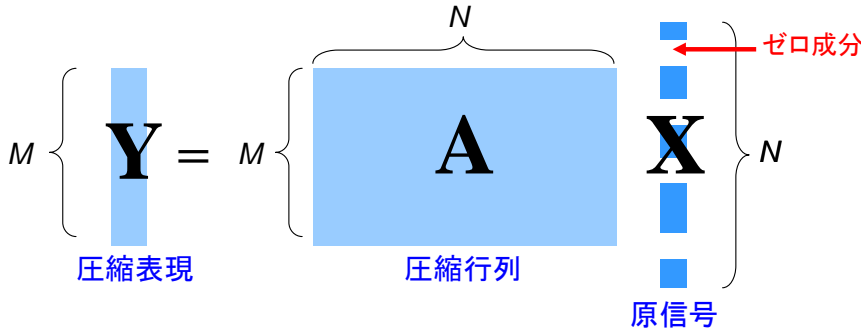


# レプリカ法による制限等長定数の解析

坂田 綾香 モデリング研究系 助教

東京工業大学 大学院総合理工学研究科 樺島祥介氏との共同研究



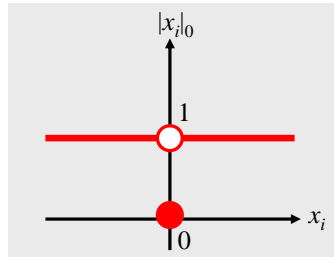
最もスパースな原信号 $\mathbf{X}$ を一意に復元するための条件は？

## スパースな原信号の復元方法

$l_0$ 再構成

$$\hat{\mathbf{x}} = \arg \min_{\mathbf{x}} \|\mathbf{x}\|_0, \text{ subject to } \mathbf{Y} = \mathbf{A}\mathbf{x}$$

非ゼロ要素の数

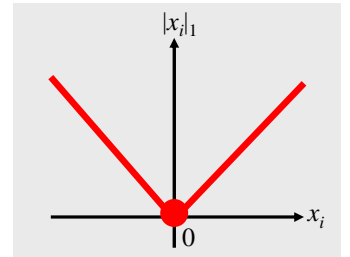


- NP困難
- 全数探索が必要

$l_1$ 再構成

$$\hat{\mathbf{x}} = \arg \min_{\mathbf{x}} \|\mathbf{x}\|_1, \text{ subject to } \mathbf{Y} = \mathbf{A}\mathbf{x}$$

絶対値の和



- 線形計画問題
- $l_0$ 再構成の凸緩和

復元成功の十分条件は制限等長定数により与えられる

## 制限等長定数の定義

$S$ 個の非ゼロ要素を持つベクトルを $S$ -スパースベクトルと呼ぶ。

全ての $S$ -スパースベクトル $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^N$ について、次の関係を満たす定数 $\delta_S^{\min}, \delta_S^{\max}$ が存在するとき、

$$(1 - \delta_S^{\min}) \|\mathbf{x}\|_F^2 \leq \|\mathbf{A}\mathbf{x}\|_F^2 \leq (1 + \delta_S^{\max}) \|\mathbf{x}\|_F^2$$

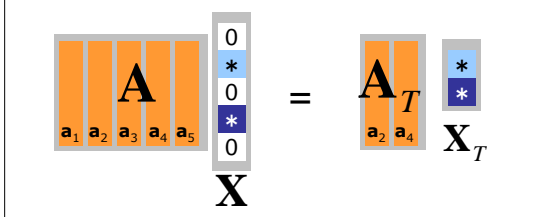
行列 $\mathbf{A}$ は $S$ -制限等長性(RIP)を満たす。

$\delta_S = \max\{\delta_S^{\min}, \delta_S^{\max}\}$ を制限等長定数(RIC)と呼ぶ。

$\delta_S$ が小さいとき、 $\mathbf{A}$ は正規直交系に近い。

要するに

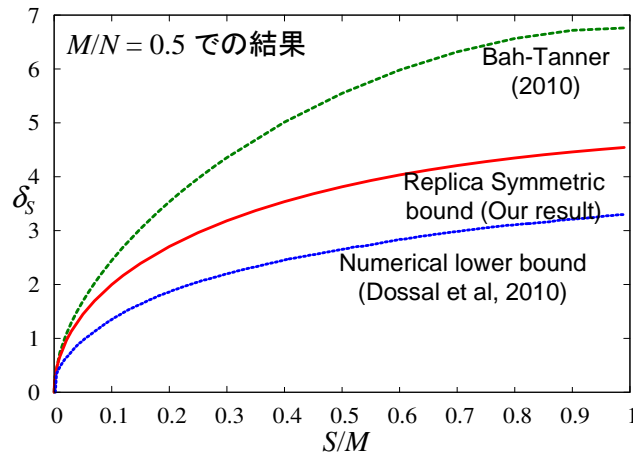
$S = 2, T = \{2, 4\}, N = 5, V = \{1, 2, 3, 4, 5\}$



$$\lambda_{\min}(\mathbf{A}_T^T \mathbf{A}_T) \|\mathbf{x}_T\|_F^2 \leq \|\mathbf{A}_T \mathbf{x}_T\|_F^2 \leq \lambda_{\max}(\mathbf{A}_T^T \mathbf{A}_T) \|\mathbf{x}_T\|_F^2$$

$$\delta_S = \max\{1 - \min_{T:|T|=S, T \subseteq V} \lambda_{\min}(\mathbf{A}_T^T \mathbf{A}_T), \max_{T:|T|=S, T \subseteq V} \lambda_{\max}(\mathbf{A}_T^T \mathbf{A}_T) - 1\}.$$

1.  $\delta_{2S} < 1$  のとき、 $l_0$ 再構成は一意的な $S$ -スパース解を与える。
2.  $\delta_{2S} < 2^{1/2} - 1$  のとき、 $l_1$ 再構成は $l_0$ 再構成と同じ解を与える。  
[Candes and Tao, *IEEE Trans. Inform. Theory* (2005)]
3. (2.の改善)  
 $(4\sqrt{2} - 3)\delta_{2S}^{\min} + \delta_{2S}^{\max} < 4(\sqrt{2} - 1)$  のとき、  
 $l_1$ 再構成は $l_0$ 再構成と同じ解を与える。  
[Foucart and Lai, *Appl. Comput. Harmon. Anal.* (2009)]



我々の見積もりは、既存研究より良い上界を与える。  
詳しい導出は arxiv: 1501.06281